

1. 平成22年度内部環境監査終了

全8部署に対し、1月18日、25日、31日、2月14日、22日の5日間に亘り、ISO14001の規格、及び当社のマニュアル、規格等に基づき、内部環境監査を実施しました。全部署のご協力のもと、下記のような監査結果を得ました。

チェック項目総数	302	(8部署)
重大な不適合(A)	なし	
軽微な不適合(B)	なし	
観察事項(C)	2	件
* 要望・推奨事項	19	件
良い点	4	件
* 委員会審議事項	2	件



今回は、法規制が順守されているかどうか、また業務上の課題・改善点があるかどうかを主眼に監査をいたしました。そのためでしょうか、要望・推奨事項の件数が昨年度と比較して倍増しています。今後も、環境マネジメントシステムがより役立つことを目指していきたく思いますので、これからも継続して取組みにご協力いただけますようお願いいたします。

詳細は 内部監査終了報告書をご覧ください。

2. 高知県カーボンオフセット・クレジット終了・・・CSRがISO規格へ

2010年10月より実施していました「ゲットクリーンアース作戦／高知県カーボンオフセット・クレジット付き商品発売」は、2011年2月28日で完売し、成功裡に終了しました。このイベントにより、当社は「企業としての社会的責任」を十分に果たしているといえます。企業は質の良い製品を作る、環境に配慮するなど当たり前のことで、その責任を果たすことが重要です。企業は社会的存在として、最低限の法令遵守や利益貢献といった責任を果たすだけでなく、市民や地域、社会の顕在的・潜在的な要請に応え、より高次の社会貢献や配慮、情報公開や対話を自主的に行うべきであるという考えが「企業の社会的責任」(CSR)といわれています。(corporate social responsibility)

企業評価の指標として、法律や制度で決められた範囲を超えて“よりよい行動”をすることを望ましいとする傾向が生まれています。実際の活動内容はさまざまで、「関連法規の遵守やコンプライアンス」「よい製品・サービスの提供」「地球環境への配慮」「適切な企業統治と情報開示」「誠実な消費者対応」「環境や個人情報保護」「ボランティア活動支援などの社会貢献」「地域社会参加などの地域貢献」などがあります。また、株式市場や格付機関が企業評価の尺度としてCSRの視点を取り入れるようになってきており、英、仏、独などでは年金の投資先評価の際に、環境・社会・倫理面の評価を法律で義務付けています。このように、企業のグローバルな活動などに対して、より高い倫理観による規制・ガバナンスを要請する動きも急で、ISO(国際標準化機構)では国際規格化が進められ、2010年11月1日にISO26000として発行されました。

日本においては企業や経済団体が主導的に活動しており、日本経団連では「企業行動憲章」、経済同友会では「自己評価ツール」などが提示され、また日本規格協会には「CSR標準委員会」が設置されて、ISOの動きに対応した形で日本規格作りが進められ、2011年度にJIS化する方向で調整が行われています。



3. 東北関東大震災について

3月11日に発生した東北関東大震災(東北地方太平洋沖地震)におきまして、被害に遭われた方々に慎んでお見舞い申し上げます。また犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、一人でも多くの方のご無事と、一刻も早い復旧を心から願っています。

筆者は、在宅して台所で燻製作りをしていましたが、今まで経験したことのない揺れに驚き、すぐ消火して、脇の食器棚が倒れないように支えて踏ん張りました。そばの冷蔵庫のドアが揺れで勝手に開いたり閉まったりして中のものが落ちてきて散乱し、燻製缶が倒れ、食器棚の中でガラス、陶器が割れるのを見た時は、恐怖を感じました。因みに、筆者の住まいは高層の14階です。窓の外を見ると隣の棟の屋上の避雷針がメトロノームのように振れていました。ようやく揺れが収まって、部屋の中を見渡すと信じられない光景が目に入りました。和ダンスが倒れ、整理ダンスの上部が落ちて、引き戸のガラスが粉々になり、洋服ダンスが傾いて、夫々の中のもの散乱し、足の踏み場もありません。リビングでは観葉植物棚が倒れ、鉢が落ちて植物と土が散乱し、テレビが傾き、サイドボードの中ではガラス製品が割れ、上の置物なども落ちて壊れています。本箱の蔵書もほとんど落下し、机の上に置いていたプリンターが本の中に埋まっています。これが、夜、就寝中に起こっていたらと思うと、ゾーッとて、しばらくは茫然自失の状態でした。気を取り直して、片づけをはじめたところに外出していた家内が戻ってきました。停電でエレベーターが停止していたため14階まで階段を上がってきた由、息を切らしていました。とりあえず、当日は寝場所を確保するのが背一杯でした。タンスには壁とタンス同士を接着する簡易の地震対策をしていたのですが殆んど役に立たず、壊れたガラス、陶器はダンボール3箱になり、まさに楽観的な準備不足による「想定外の出来事」でした。

マグニチュード9.0の巨大地震、そして、10mを優に超える大津波は、まさに想像を絶する大惨事をもたらしました。さらに、東京電力福島第一原子力発電所では、恐れられていた大地震による原発事故が現実のものになってしまいました。宮古市田老には、世界に誇る高さ10mの防潮堤が、この巨大地震と大津波の前に無力で、なすすべも無く、また、何重にも用意されていたはずの原発の安全装置も一瞬にして破られてしまいました。



今回の震災では、あちこちで「想定外」という言葉が言われています。今回に限らず、大きな災害が起こる度に言われているような気もしますが、「想定」自体がもともと不十分だった「想定外」もあれば、人間が「想定」することに限界がある故の「想定外」もあります。前者なら「人災」というべき側面をもち、「想定外」という言葉は免罪符にならないでしょう。たしかに、後者のように、自然相手には人智の及ばないほんとうの「想定外」もあり科学は絶対ではないと思います。

日本の地震の年表では近々で規模の大きなものは1896年の明治三陸地震 -M8.2~8.5、死者・行方不明者2万1,959人(日本最大の津波被害)で、岩手県の三陸海岸では下閉伊郡田老村(現・宮古市)で14.6m、同郡重茂村(現・宮古市)で18.9m、気仙郡吉浜村(現・大船渡市)で22.4m、同郡綾里村(同)で21.9mと軒並み10mを超える高さを記録しています。また約1500年前、日本・西部南岸地殻隆起から推測すると東海・南海・九州沖で連動巨大地震-M9?(推定)の痕跡が見られるとのことです。世界ではM9.0を超える巨大地震が、2004年スマトラ・アンダマン地震M9.3、1964年アラスカ地震M9.2、1960年チリ地震M9.5が起きています。

M9.0以上の地震、大津波が日本近辺で起こらないという保証は無かったのです。

東電が同原発で設計時に想定したマグニチュード、ガル、震度、津波の高さ、威力などの基準値は一体どこを想定して決定されたのでしょうか。巨額の対応コストの問題もあるかもしれません。認可した国と東電は、「想定外」の根拠の検証、説明責任は求められるのではないのでしょうか。まずは、一刻も早い終息を願わずにはいられません。今夏も、電力供給不足は続き、計画停電も継続される見込みです。一人ひとりができる限りの節電に協力しましょう。

